



令和4年
9月16日(金)

学力調査の結果から

「全国学力・学習状況調査」(三年生/国語・数学、理科、生徒・学校質問紙)と「みえスタディ・チェック」(一・二年生/国語・数学・理科・生徒意識調査)の結果(概要)をお知らせします。生徒の皆さんは個人の結果を家庭学習などに活かしてください。

学校としては、全体の正答率や回答状況を分析し、学校としての「強み」「弱み」の把握に努め、全教員の共通理解のもと授業改善等を通じて学習や生活の指導に活かしていきます。

(強み◎、弱み△、取組◆)

【国語】

〔全国学調〕正答率は全国平均よりやや高い。

◎論理の展開などに注意して聞き、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話す。

◎場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈して記述する。

△文脈に即して漢字を正しく書く。

(問い) 草を取りのぞく、よろこんでいる祖父父母
△行書で書いた文字の特徴を正しく説明した文を選ぶ。

〔みえスタ〕

◎目的や意図に応じ、内容を整理しながら記事を書く。

図表やグラフなどを用いた目的を捉える。

◎複数の資料から適切な情報を得て、考えを書く。
△文と文とのつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。

△文中の主語と述語の関係などに注意して文を書く。

(問い) 主語と述語がつながっていない文(反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。)を選択肢から選び、文の意味を変えずに、傍線部分を正しく書き直す。

【数学】

〔全国学調〕正答率は全国平均よりやや高い。

◎数式の問題において、問題場面における考察の対象を明確に捉える。

◎図形の問題において、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する。

△変化の割合が2である一次関数を表した表を選ぶ。

△データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。

(問い) より長い時間回りそうなコマを選び、二つのヒストグラムを比較して選んだ理由を説明する。

〔みえスタ〕

◎与えられた資料の度数分布表について、ある階級の度数を求める。

◎資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明する。

(問い) 正方形の紙を二回折りして切った場合、図に示された正六角形になる切り方を正しく選ぶ。

△示された位までの概数にする際、一つ下の位の数を四捨五入して処理する。

△反比例の関係をグラフと表を関連付け理解する。

【理科】

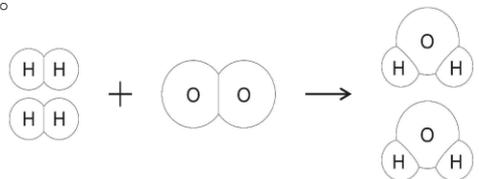
〔全国学調〕正答率は全国平均とほぼ同じ。

◎ダイオウグンクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する。

◎タブレットのタッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるための実験で条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する。

△分子のモデルで表した下図を基に、水素の燃焼を正しく示した化学反応式をア～エから選ぶ。

△分子のモデルで表した下図を基に、水素の燃焼を正しく示した化学反応式をア～エから選ぶ。



ア $4H + 2O \rightarrow 2H_2O$ ウ $2H_2 + O_2 \rightarrow 2H_2O$
イ $H_2 + O_2 \rightarrow H_2O$ エ $H_4 + O_2 \rightarrow H_4O_2$

△生物Xとアリのスケッチを比較して、生物Xが昆虫かどうかを基準・観点を明らかにして判断のうえ、あしの数の違いなどを根拠に説明する。

〔みえスタ〕

◎物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解し、正しく説明する文を選ぶ。

◎石灰水のようなすの変化を分析して解釈し、発生した気体を特定する。

△振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適用して考える。

△ボーリング調査の結果を比較して、ある地点の地表の海面からの高さを求める。

【生徒・学校質問紙による学習・生活・意識の状況】

◎教科を越えて無回答率が低く、質問紙調査においても、粘り強く考えようとする姿勢が見られる。

◎「自分にはよいところがある」「失敗を恐れず挑戦する」等は肯定的な回答の割合が高い傾向がある。

△「自分で計画を立てて勉強をしている」に肯定的な回答の割合が低く、見通しを持って学習に取り組むことを苦手としているようが見られる。

△学校として、授業において自らの考えがうまく伝わるよう資料や文章・話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行う取組がやや弱い。

【結果を踏まえての指導の工夫・改善】

◆ICTの効果的な活用をさらに進め、図表・グラフ等と関連付けて学習することを大切にし、考えたことを適切に表現し伝える力を育てる。

◆生徒自らが「問い」を立て、「納得解」を追究する授業が展開できるよう、校内研修により研鑽する。

◆「できればいい」で終わらずに、「どうしてそうなるのか」を生徒に問うことで、学びの本質に気づかせる授業を展開していく。

◆基本的な知識の確実な定着に向けて、小テストの取組や少人数指導を通じて、引き続き粘り強く取り組む。

